

このひと

日本分析化学会名誉会員になられる

尾崎 幸洋氏

(Yukihiko OZAKI
関西学院大学名誉教授)

1978年大阪大学大学院理学研究科博士課程修了，カナダ国立研究所，慈恵医大勤務を経て，1989年に関西学院大学理学部助教授。1993年同教授，2001年に学部改編により，同大理工学部教授，2018年より，名誉教授。現在，神戸大学，福井大学客員教授，理化学研究所主幹客員研究員，豊田理研客員フェロー。日本近畿支部支部長，副会長を歴任。主な受賞は2002年日本分析化学会賞，2012年日本分析化学会先端分析技術省（JAIMA 機器開発賞）受賞，2018年紫綬褒章受章など。

尾崎先生がこの度名誉会員に推挙された旨の連絡を受け，長年にわたってご指導をいただいた一人として，心からお祝い申し上げます。

尾崎先生はご自分の幅広い研究を表現されるたびに，いつも「分光領域の隙間を埋めること（Gap Spectroscopy）」，「基礎と応用に橋を架けること」，「分光学と量子化学に橋を架けること」とおっしゃいます。その特徴の一つは，新しい分析装置を各分光領域で開発され，それを用いて基礎研究から分析応用まで手掛けられたことです。減衰全反射遠紫外分光装置，コンパクト近赤外イメージング装置，超高真空，極低温 TERS 装置などを JST, NEDO などから支援を受け，産学共同で作られたことが，その特徴を表しています。遠紫外分光分析法の研究を例にとると，東，池羽田らと ATR-FUV 分光法を創始することから始め，私や田邊，分子研の江原先生とともに，基本的溶媒のスペクトルの帰属，電子遷移や電子状態について量子化学計算を駆使して研究を進められました。これを基礎に，水や水溶液の研究，高分子，無機半導体，イオン液体など材料研究への応用などを進められました。近赤外分光の研究では池羽田，二見，Bec らと，倍音，結合音，非調和性の研究で独創的な基礎研究や，近赤外域にも量子化学計算を積極的の取入れた革新的進歩をもたらされました。応用面では，近赤外イメージングを用いて高分子，生体物質への応用からプロセス分析への応用まで行いました。SERS/TERS 研究では，伊藤らと進めた電磁場増強理論による SERS のメカニズム研究から，分析応用では SERS の 3 次元イメージング，SERS によるエナンチオマーの区別，溶液 TERS などが有名です。テラヘルツ/低波数ラマン分光法の研究では，佐藤春，山本茂，保科らと強い水素結合形式の違う高分子のスペクトルを分子



断片化法を用いて帰属し，相互作用メカニズムの定性分析や結晶多形の分析を発展されました。

尾崎先生は 1989 年関西学院大学理学部に移られ，そこで主宰された研究室から，数多くの論文を発表されました。発表された論文数は 2021 年 9 月時点で合計およそ 1000 報，30000 回以上の被引用を受けています。私は尾崎先生が学部長や副学長・常任理事をしていただいたときに尾崎研の博士研究員として勤めておりましたが，キャンパス間を行き来する分刻みのスケジュールから，学生との時間を大切に，議論をしておられたのが印象的でした。学生・研究員が論文を書いて渡せば，すぐさま適切なコメントが返ってくるので，素早く高いレベルに仕上がりました。これは，広い研究分野すべてにおいて深い知識と，それぞれにビジョンを持って進めてこられたことを示すものだと思います。また，世界中から様々な分野の研究者・学生が集まりました。尾崎研では，海外からの留学生や博士研究員，客員教授も多く，中国，韓国，台湾，タイ，インドネシア，インド，バンラデッシュ，ドイツ，オーストリア，ポーランド，チェコ，ノルウェー，スペイン，セルビア，アメリカといろいろな人種，宗教が入り混じった多国籍研究室でした。一方で，社会人ドクターも多数輩出されました。最近お伺いしたところ，これまでに学士約 180 名，修士約 100 名，博士約 40 名，博士研究員等約 55 名が巣立ったとのことでした。狭い尾崎研はいつもやる気に満ちた学生，研究員で満員でした。

以上のように，幅広く大変ユニークな研究を絶え間なく発表され続け，多くの人・分野・国に橋を架けてきた尾崎先生の名誉会員就任を心からお喜びするとともに，今後のさらなるご活躍を祈念します。

〔近畿大学理工学部 森澤勇介〕